

Economic Indicators

発表日: 2020年3月12日(木)

企業物価指数(2020年2月)

～新型コロナウイルスの影響により前月比で低下、先行きは更に落ち込む公算大～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

(単位: %)

		国内企業物価				最終消費財 (国内品)		国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価 (円ベース)		輸入物価 (円ベース)	
		前期比	前期比※	前年比	前年比 (消費税除く)	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
2019	1月	▲0.5	▲0.5	0.6	0.6	▲0.6	▲1.4	▲0.5	0.6	▲2.6	▲3.5	▲5.3	▲2.0
	2月	0.3	0.3	0.9	0.9	0.4	▲0.8	0.3	0.9	1.0	▲1.6	1.1	▲0.8
	3月	0.3	0.3	1.3	1.3	0.3	▲0.3	0.3	1.3	0.7	0.1	1.5	2.4
	4月	0.4	0.4	1.3	1.3	0.7	0.8	0.4	1.4	0.4	0.2	0.3	1.5
	5月	▲0.1	▲0.1	0.7	0.7	0.0	0.3	▲0.2	0.7	▲1.4	▲2.6	▲0.6	▲1.9
	6月	▲0.6	▲0.6	▲0.2	▲0.2	▲0.5	▲0.4	▲0.4	0.1	▲1.7	▲4.3	▲2.0	▲5.8
	7月	▲0.1	▲0.3	▲0.7	▲0.7	0.0	▲0.5	▲0.1	▲0.4	▲0.3	▲5.0	▲1.9	▲8.4
	8月	▲0.2	▲0.2	▲0.9	▲0.9	▲0.3	▲0.7	▲0.3	▲0.7	▲1.3	▲5.9	▲0.6	▲8.5
	9月	0.0	▲0.1	▲1.1	▲1.1	0.1	▲0.8	0.1	▲0.8	0.0	▲6.3	▲0.8	▲9.7
	10月	1.2	1.5	▲0.3	▲1.9	▲0.4	▲1.9	1.2	0.0	0.4	▲6.3	0.3	▲10.9
	11月	0.1	0.1	0.2	▲1.4	0.1	▲1.1	0.1	0.4	0.2	▲6.1	0.3	▲11.3
	12月	0.1	0.1	0.9	▲0.7	0.4	0.2	0.1	1.0	0.1	▲4.4	1.0	▲6.7
2020	1月	0.1	0.1	1.5	0.0	▲0.2	0.6	0.1	1.6	0.3	▲1.5	0.6	▲0.8
	2月	▲0.4	▲0.4	0.8	▲0.8	▲0.5	▲0.3	▲0.5	0.8	0.3	▲2.1	0.1	▲1.8

(出所) 日本銀行「企業物価指数」

※は夏季電力料金調整後の値。

○ 国内企業物価は商品市況の悪化を主因に前月比で▲0.4%の低下

2月の国内企業物価は前月比▲0.4%（コンセンサス：同▲0.3%、レンジ：同▲0.6%～+0.2%）、前年比+0.8%（コンセンサス：同+1.1%、レンジ：同+0.7%～+1.9%）と、コンセンサスを下回る結果となった。また、消費税を除いた場合でみると前年比▲0.8%となり、2か月ぶりの低下となった。

前月比で内訳をみると、商品市況の悪化により石油・石炭製品が前月比▲4.8%（寄与度：▲0.32%pt）、スクラップ類が同▲8.2%（同：▲0.04%pt）、非鉄金属が同▲1.3%（同：▲0.04%pt）となっている。2月の商品市況の悪化は新型コロナウイルスの感染拡大による世界経済の先行き不透明感の強まりによるものである。足元で新型コロナウイルスの感染拡大は世界的な広がりを見せており、3月以降の国内企業物価は更なる下振れが見込まれる。

輸入物価指数は契約通貨ベースで前月比▲0.2%、円ベースで同+0.1%となった。鉄鉱石や銅・同合金くずなどの金属・同製品が低下したことなどから契約通貨ベースでは前月比で低下した。一方、円ベースでは為替の円安を受けて前月比で上昇した。3月は商品市況の悪化や為替の円高を受け、輸入物価は下振れることが予想される。

○ 需要段階別・用途別指数は低下、3月以降も低下する公算大

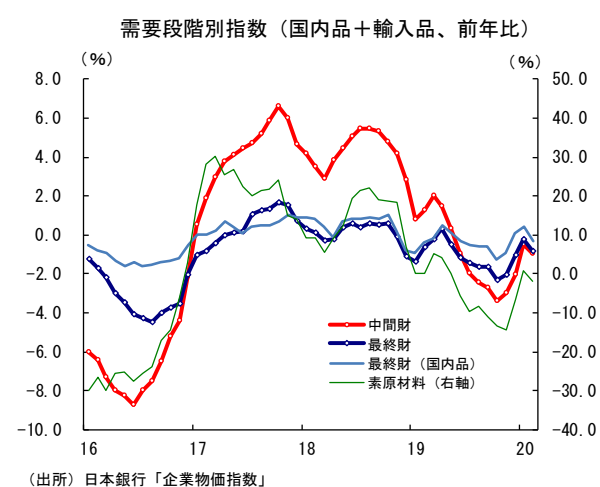
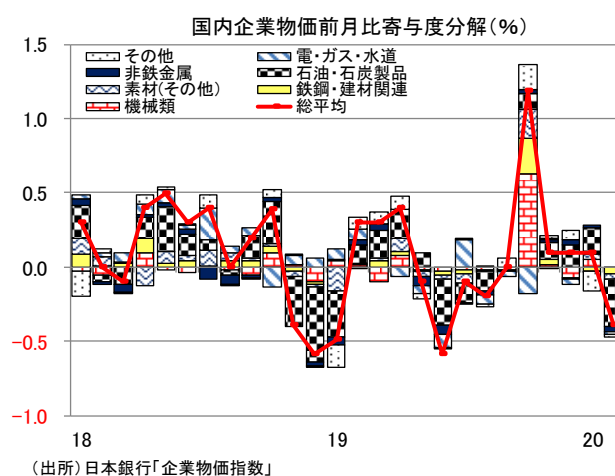
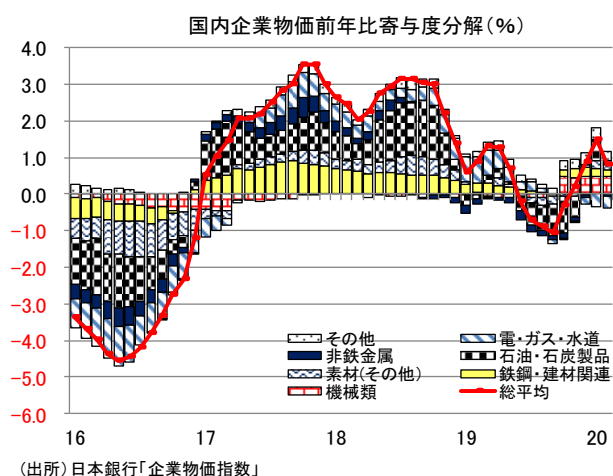
需要段階別・用途別指数（国内品+輸入品）をみると、素原材料は前月比▲0.8%（前年比▲1.8%）、中間財は同▲0.2%（同▲1.0%）、最終財は同▲0.3%（同▲0.8%）となった。また、消費者物価との関連の深い消費財の国内品は同▲0.5%（同▲0.3%）となった。商品市況の悪化を背景

に、素原材料を中心に下落に転じた。足元で商品市況は更なる悪化をみせており、3月以降も下振れる可能性は高い。

○ 新型コロナウイルスの影響により、国内企業物価は3月以降の下振れが見込まれる

以上より、2月の国内企業物価は新型コロナウイルスの感染拡大による商品市況悪化を主因に前月比で低下、前年比ではプラス幅を縮小させた。

足元で新型コロナウイルスはパンデミックの状況となり、世界経済の先行き不透明感が更に強まっている。2月の国内企業物価低下の主因となった商品市況は更なる悪化をみせており、原油価格（ドバイ）は30ドル前半と大幅に下落している。また、国内での自粛ムードの強まりや輸出の減少が見込まれるなど、景気への悪影響もでてきている。国内企業物価は3月も下振れる可能性が高く、前年比で低下に転じる可能性もあるだろう。感染拡大の終息がみられない中、先行きの国内企業物価は低迷が続く可能性が高い。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。